第1分科会　国語教育（言語活動と言語の教育）

言葉で伝え合う力を身に付け、深まりのある話し合いができる児童の育成

1．設定理由

本校の児童は、学年が上がるにつれて自分の思いや考えを話すことに難しさを感じている児童が多い。また、自分の考えと比較しながら話を聞くことができない、相手の意見を受け入れて話し合う姿勢が育っていない実態がみられる。

そこで、児童自身が目的や必要性を意識して取り組めるような課題を設定し、話し方や聞き方を身に付けさせる指導を工夫することで、自分の思いや考えを生き生きと伝え合い、新しい考え方を見つける話し合いができる児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

2．研究仮説

○相手意識や目的意識が明確となる課題を設定すれば、自分の思いや考えをしっかりともち、生き生きと伝え合うことができるであろう。

○話し方や聞き方を身に付けさせる指導の工夫をすることで、対話的な能力が育ち深まりのある話し合いができるであろう。

3．研究内容

①1年生「教えてもらおう　教えてあげよう　小倉台小のすてきなところ」
　～小倉台小クイズをつくろう～　での実践

②4年生「すてき発見！　聞いて！　マイブーム」での実践

4．結論

○相手意識や目的意識（誰に何のために伝えるか）がはっきりしていたので、話したいという思いをもち、意欲的に学習に取り組むことができた。

○単元のゴールの姿を確認し、話し合って学習計画を立てたことで、学習の見通しを持つことができた。

○様々な学習で交流の場を設定することにより、聞き手を意識した話し方ができるようになった。（反応を見る。理解しているか確認しながら話をする。）聞き手も、うなずいたり相づちをうったりと反応しながら聞けるようになってきた。

○形成的評価をすることで、ゴールに向かう自分の位置が確認でき、次のめあてを明確にして活動に取り組むことができた。

印旛支部
印西市立小倉台小学校
佐々木　朗子
照井　砂織

1　研究主題

言葉で伝え合う力を身に付け、深まりのある話し合いができる児童の育成

2　主題設定の理由

（1）　今日的課題から

今目の前にいる子どもたちが社会を担う頃には、社会構造や雇用環境は大きく、急速に変化していくだろうと予測されている。すぐには解決できない様々な問題が山積する社会、情報化やグローバル化が一層進んでいく社会を生き抜くためには、互いの立場や考えを尊重し協力していく姿勢、様々な情報を取捨選択して活用する力、状況の変化に柔軟に対応し、新たな考えや方法を生み出す力を育てていくことが求められている。

そこで本校では、相手を尊重して聞く態度を育て、言葉で正しく理解したり表現したりする力を身に付けさせ、話したり聞いたりする活動を通して、新しい考えを見つけていく力を育てさせたいと考えた。

（2）　学習指導要領から

国語科の教科目標を受けて示された 3 つの柱の中の（2）では、「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。」と掲げられている。「伝え合う力を高め」は、前回、前々回の学習指導要領から継続されている。それは、現代社会の中でも伝え合う力の必要性が課題であり、大事な学力として押さえられているからだろう。人と人との関係の中で、考えや意見の合わない人ともお互いの立場を尊重し、言葉を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を育成することが求められている。

また、国語科の目標は、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語科で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することをめざす。」とある。そして、この言語活動を「主体的・対話的深い学び」の視点から授業改善を進めるように学習指導要領に示されている。

国語科における「深い学び」の実現に向けて、言葉による見方・考え方を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動を設けることが大切だろう。「話すこと・聞くこと」では、相手の考えや意見をじっくりと聞き、意見を受けとめる、対話的な態度を育成すること、友だちや教師と関わりながら理解し直したり表現し直したりしながら、多様なものの見方を学んでくことが、深まりのある話し合いへとつながっていくと考える。

（3）学校教育目標から

本校の教育目標は、「豊かな心を育み、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成」である。ここでいう「豊かな心」とは、多面的な見方をしたり、自分と違うものの見方や考え方を尊重したりすることができる心である。「自ら学ぶ」とは、自主的に

学習することである。「たくましく生きる」とは、課題や問題に挑戦し続ける強い心と体を持つことである。

伝え合う力を身に付けることは、人との関わりを深め、お互いを理解し合う力になるだろう。また、新しいものの見方や考え方を発見する機会となる。そして、豊かな心を育てることへとつながっていくと考える。

（3）児童の実態から

2016年度より3年生以上の学年で外国語活動・外国語の研究を行ってきた。外国語活動を通してコミュニケーション能力の素地を培うことを目標としている。そこでは、「smile」「eye contact」「clear voice」の3つを合言葉に、コミュニケーションに欠かせない共感的な態度の育成を図ってきた。

昨年度行った国語科の児童アンケートを見ると、自分の思いや考えを話すことが得意と答える児童は、1年生は8割近くと高く、6年生は5割を切る結果となった。人の話を聞いてその意味がよく分かるかという質問には、どの学年も約8割の児童が分かると答えている。また、友だちの話を聞いて感想を言ったり、質問したりすることが、良くできると答えた児童は、どの学年も6割程度であった。

一方で、教員側のアンケートによると、

・原稿があれば話せるが質問されたことや人の話を受けて自分の考えを話すことはできない。
・自分の考えと関係があることは聞いているが、自分の考えと比較したり共感したりしながら聞くことができない。
・意見を出し合って、結論を導き出そうとする姿勢に欠ける。相手の意見を受け入れて話し合う姿勢が育っていない。

であり、児童の答えたアンケートとの差があった。児童にとって話したり聞いたり、話し合ったりする活動は、日常的に行っていることで難しさを感じていないからか自己評価は高い。しかし、教員側としては、伝え合いの力が低く上手くコミュニケーションが図れていない、話し合いが深まらないと感じていることがわかる。

そこで、「話すこと・聞くこと」の活動では、児童自身が目的や必要性を意識して取り組めるような課題を設定する。そして、相手の話をじっくりと聞き、意見を受けとめる聞き方、受け止めた上で質問や感想を述べる、対話的に聞く態度を身に付けることをめざす。さらに、語彙を広げる活動を工夫し、言葉で正確に伝え合う力を高めていきたいと考える。

以上述べた、今日的課題、学習指導要領、学校教育目標、児童の実態から、「言葉で伝え合う力を身に付け、深まりのある話し合いができる児童の育成」を主題として設定した。

3　主題について

（1）「言葉で伝え合う力を身に付ける」とは

学習指導要領の中で、「伝え合う力」とは、「人間と人間の関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力」と示されている。「言葉で伝え合う力」とは、単に自分の思いや考えを話す、相手の話を聞くということではない。自分の思いや考えを正確に言語化し、聞き手に分かるように話す力、心が話し手の方を向き、相手を受け止めようという気持ちで聞く態度、相手の思いや考えを受けとめた上で質問や感想を述べることができる力であると捉えた。

（2）「深まりのある話し合いができる」とは

本校の話し合い活動を見てみると、グループの一部の子どもが意見を発言するだけに終わってしまう話し合いや、全員が発言しないまま、安易に多数決で決まってしまう話し合いが少なくない。「深まりのある話し合いができる」とは、まず対話的な態度で、話し合いに臨むことができるということである。話し手は、聞き手の反応を見ながら、自分の思いが伝わるように工夫して話す。聞き手は、相手の意見を受けとめるという姿勢でじっくりと聞く。そして、相手の意見を受けとめた上で、質問や感想を述べる。さらに、お互いの意見を取り入れて比較検討をする。そうすることで、自らの考えを見つめ、広げたり、新たな価値に気付いたりする、深まりのある話し合いができるようになると考える。

4　めざす児童像　（話すこと・聞くこと）

低　学　年	中　学　年	高　学　年
○相手に伝わるように、事柄の順序を考えて話せる子	○相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら、話の中心を明確にして話せる子	○話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、構成を考えて話せる子
○伝えたい事柄や相手に応じて声の大きさや速さを工夫して話せる子	○話の中心や場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方を工夫して話せる子	○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫して話せる子
○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさずに聞き、話の内容を捉えて感想をもてる子	○必要な事を記録したり質問したりしながら聞き、話の中心を捉えて自分の考えをもてる子	○話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら聞き、自分の考えをまとめることができる子

○お互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる子	○目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる子	○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりできる子

5　研究仮説について

仮説１　相手意識や目的意識が明確となる課題を設定すれば、自分の思いや考えをしっかりともち、生き生きと伝え合うことができるであろう。

生き生きと伝え合うためには、まず、伝える相手や目的を明確にさせ、学習に取り組むことが必要である。

相手意識や目的意識が明確となる課題とは、児童自身が「だれに」「何のために」その言語活動を行うのかということが分かっていることである。そのためにも、児童の実態に合わせて、児童の願いや思いを生かした課題を設定することが大切である。さらに、伝え合うためには、「何を」「どのように」「どんな力を身に付ければ、課題が達成できるのか」を児童一人一人が考え、学習の見通しを持ち、計画を立てることで、目的や必要性を意識して意欲的に学習に取り組めるだろう。また、自己の言語活動を振り返る場面を設けることで、自分の伝え合う力の向上した点を実感し、次の課題を自分で見つけ学習を進めていくことが期待できる。そのような、主体的な学びを通して、言葉で伝え合う力を身に付けていくことができると考えた。

（具体的手立ての例）
・児童の実態に合わせた、学習活動の工夫（目的・相手を明確化）
・学習の見通しを持たせるための工夫
・自己評価カードを使った形成的評価を行う。

仮説２　話し方や聞き方を身に付けさせる指導の工夫をすることで、対話的な能力が育ち深まりのある話し合いができるであろう。

深まりのある話し合いをめざすには、対話的な能力を育てていくことが必須である。

対話的とは、一方的に話すのではなく、お互いの話をよく聞き合い、共有し、様々なものの見方から自分の考えを広げ深めていくことと考える。その力を伸ばしていくためには、話し方や聞き方を身に付けさせる指導を工夫していくことが大切である。

話し方を身に付けるためには、話し方の言語技術を教えるのではなく、伝え合う相手や場を明確にし、自分たちでどのような言語技術が必要なのか考えていく学習の場を設定する。そして、自分の思いや考えが正確に言語化できているの

か、相手に伝わる内容になっているのかを振り返り、試行錯誤しながら取り組める活動にしていく。また、自分の思いや考えを正確に伝えるために必要な語彙を集める活動も入れることで、語彙を広げ、言葉で正確に伝える力を育てることができるだろう。

相手の考えや思いを受けとめる聞き方を身に付けるためには、どのような聞き方をすればこの課題が達成できるのかを、児童自身に考えさせる活動を設定することが必要だと考える。また、聞いたことで「相手を理解できて嬉しい」、「新しい考えやものの見方を発見できたという喜び」が味わえるように活動内容を工夫する。さらに、聞いて感じたことや思ったことを表現する場を設けることで、自分の聞き方を振り返り、自己の聞き方を高められると考える。また、話し手には、何が伝わったのか明確になり、次の自己表現への意欲へとつながっていくと期待できる。

このように話し方や聞き方の指導を工夫していくことで、お互いの意見や考えを正確に伝えたり理解したりできるようになり、相手を受け入れて比較検討する姿勢が育ち、新しい考え方やものの見方を発見できるような話し合いの力を身に付けていけるようになると考える。

（具体的手立ての例）

・言語モデルや交流の進め方の手引きを示す。
・示したものをもとに、話の型を子ども達に考えさせ、イメージ化を図る。
・目的に応じた学習形態の工夫（ペア・グループ・全体）
・語彙を増やす指導の工夫（読書・言葉集め）
・自己評価・相互評価の工夫
・外国語活動との学習をリンクさせる。（「smile」「eye contact」「clear voice」・言葉集め・相づち）
・視聴覚機器の活用

学習の実践〈1年生〉

単元名　教えてもらおう　教えてあげよう　小倉台小のすてきなところ
～小倉台小クイズをつくろう～
つけたい力　インタビューによって情報を取り出し、大事なことを伝え合う言葉の働きに気付いたり、そのよさを感じたりする力。
言語活動　①この6年生は誰だクイズ
②小倉台小クイズ大会

相手意識や目的意識が明確となる課題を設定　仮説1

1．本単元の目的・課題を共通理解する。

目的意識

2年生になった時に、先輩として1年生にしっかりと学校案内ができるよう、もっと小倉台小学校について詳しくなるため。

2．言語活動1　この6年生は誰だクイズ

クイズをするために、ペアの6年生からヒントになる情報をたくさん聞き出そうとしたり、正確に聞こうとしたりする意欲をもてた。2回インタビューを行うことで、1回目にできなかったことを意識して2回目に挑戦することができた。

話し方や聞き方を身に付けさせる指導の工夫　仮説2

1．話し方・聞き方のポイントを示す

・話し方あいうえお
・聞き方あいうえお

2．話し方聞き方ドリルを行う

①早口言葉
②音読キャッチボール
③伝言ゲーム

3．単元の指導の工夫

少しずつレベルアップしながらインタビューになれていく時間を確保した。

・「質問のコツ」作り
・うなずいたり相づちをうったりしながら聞く練習

・受けて返す言葉を入れて、インタビューをする

4．言語活動２　小倉台小クイズ大会.

１対１で先生にインタビューすることで、大事なことを落とさずに聞き、みんなにしっかり先生紹介をしようとする意欲をもたせる。

一度インタビューを経験しているので、自信を持って臨めた。先生について紹介した後、そのスピーチ内容からクイズが出るので、聞き手が内容をしっかり聞き取ろうとすることができた。

学習の実践〈4年生〉

単元名	すてき発見！聞いて！マイブーム
つけたい力	相手に伝わるように、話の組み立てを考え、理由を挙げながら話す力 話の中心に気をつけて聞き、感想をもち伝える力
言語活動	マイブーム　スピーチ大会

相手意識や目的意識が明確となる課題を設定　仮説１

1．本単元の目的・課題を共通理解する

・お互いのことをもっと知り仲良くなるために、マイブームを伝え合う。
・クラスの友達に、知ってもらいたい事柄を分かりやすく伝える。
・友達の素敵なところを発見する。

2．話題を選ぶ

本学級の児童は、自分のことを話すことが苦手と答える児童が多かった。そこで、今読んでいる本、好きなテレビ番組、好きなお笑い芸人、スポーツ選手などを吹き出しに書き出させた。その中から、皆に知ってもらいたい自分やまだ知られていない自分を選ぶようにした。吹き出しに書き出し、その中から選ぶことで、話題を決めることが苦手な児童もスムーズに決めることができた。

3．学習計画を立てる

「何を」「どのように」「どんな力を身に付ければ、課題が達成できるのかを考えさせ、学習計画を立てた。何ができるようになればよいかがはっきりしたことで、学習の見通しを持ち、主体的に活動することができた。

話し方や聞き方を身に付けさせる指導の工夫　仮説２

1．話し方を考える

自分のことを分かってもらうための話し方はどうすれば良いか学級で話し合いスピーチのポイントを皆で決めた。話す姿勢や話し方だけではなく伝えたいという思いを持つことが大切だと考えることができた。

2．スピーチ原稿を書く

スピーチの構成を考える場面では、わかりやすく伝えるためにどの順序で話すか話し合った。

① 夢中になっていること
② 夢中になったわけ

③ その面白さや魅力（詳しく理由を付ける。）

3．交流の場を作る

原稿を書き終わった児童でペアを作り、夢中になっているわけが伝わる内容になっているか読み合った。理由が、「楽しいから」や「面白いから」と曖昧なときには、聞き手が「何が」「どのように」「例えば」と質問するようにした。

4．タブレットを活用して練習をする

一人練習をした後に、二人練習を行った。自分の話し方を客観的に振り返ることができ、自分の課題をはっきりさせることができた。

5．振り返りカードを活用し、形成的自己評価をする

一人練習、ペア練習、スピーチ大会でそれぞれ振り返りカードを書き、話す力力がどのように伸びたか確認することができた。

6．聞き方・感想の伝え方を話し合う

友だちの素敵を発見する聞き方は、どのようにすれば良いのか話し合った。聞く姿勢だけでなく、「自分と比べながら聞く」「聞きたいという思いを持って聞く」というポイントを考えることができた。

7．語彙を増やす取り組みをする

お互いをもっとよく知り、仲良くなるスピーチ大会にするためには、相づちをうちながら聞いたり、感想を伝えたりすると良いことを確認した。感想を伝えるときには、「～がすごい」の何に当たる言葉を伝えることが大事であり、きちんと伝えることを意識して取り組むことができた。

8．聞いたことに自分の感想を加えて、違うグループへ伝える場を設定する。

友だちのマイブームを、他のグループへ伝える場を設定し、伝えるために聞くというもう一つのめあてをもって取り組むことができた。伝えるために、どのように聞けば良いのか考えたり、より知りたいという思いを持ち質問したりする、主体的な姿が見られた。

〈成果と課題〉

1．成果

○相手意識や目的意識（誰に何のために伝えるか）がはっきりしていたので、話したいという思いをもち、意欲的に学習に取り組むことができた。

○単元のゴールの姿を確認し、話し合って学習計画を立てたことで、学習の見通しを持つことができた。

○様々な学習で交流の場を設定することにより、聞き手を意識した話し方ができるようになった。（反応を見る。理解しているか確認しながら話をする。）聞き手も、うなずいたり相づちをうったりと反応しながら聞けるようになってきた。

○形成的評価をすることで、ゴールに向かう自分の位置が確認でき、次のめあてを明確にして活動に取り組むことができた。

2．今後の課題

○自分の思いや考えをわかりやすく伝えるためにも、語彙を増やし活用する力を育てていく必要がある。

○思いや考えの伝え合いで終わるのではなく、そこから新しい見方を発見したり自分達の考えを深めたりできるような質の高い交流を目指していきたい。そのためにも、交流の目的や観点を明確にし、対話的な学びの実現を図っていく。

学習の実際〈１年生〉

単元名	教えてもらおう　教えてあげよう　小倉台小のすてきなところ ～小倉台小クイズをつくろう～
つけたい力	インタビューによって情報を取り出し，大事なことを伝え合う言葉の働きに気付いたり，そのよさを感じたりする力。
言語活動	①この６年生は誰だクイズ ②小倉台小クイズ大会

相手意識や目的意識が明確となる課題を設定　仮説１

目的意識

２年生になった時に，先輩として１年生にしっかりと学校の案内ができるよう，もっと小倉台小学校について詳しくなるため。

おしえてもらおう　おしえてあげよう
おぐらだい小がっこうの　すてきなところ

1	どんな　がくしゅうを　するのかな。
2	六年生への　インタビューの　じゅんびをしよう。①
3	六年生への　インタビューの　じゅんびをしよう。②
4	六年生への　インタビューの　じゅんびをしよう。③
5	六年生に　インタビューを　しよう。
6	『この六年生は　だれだクイズ』を　しよう。
7	六年生に　おしえてもらったことを　まとめよう。
8	先生たちへの　インタビューの　じゅんびをしよう。
9	おぐらだい小クイズを　つくろう。
10	おぐらだい小クイズ大かいを　しよう。
11	がんばったことを　ふりかえろう。

↑≪教室掲示物　学習計画表≫

言語活動１　この６年生は誰だクイズ

① ペアの６年生に，小倉台小学校で頑張ってきたことをインタビューする。
② 聞いたことを，インタビューの後でメモに書く。
③ ６年生と１年生で小グループを作り，そのグループの前でメモを見ながら聞いたことを発表し，その６年生が誰のことかを６年生に当ててもらう「この６年生は誰だクイズ」をする。
④ クイズで，聞いたことを正確に話せていたかをペアの６年生に評価してもらう。
⑤ 今までお世話になった６年生について，これまでは知らなかった努力や思いがあったことをグループで共有し，「６年生を送る会」への意欲を高める。

「この６年生は誰だクイズ」をするために，ペアの６年生から，ヒントになる情報をたくさん聞き出そうとしたり，正確に聞いたりしようという意欲が持てる。

↑≪６年生にインタビューしている様子≫

↑≪話し方がどうだったかの振り返り≫

６年生の名前	１年生の名前

	◎	○△
あいての目を見てはなすことができたか。		
いそがずゆっくりはなすことができたか。		
うなずきながらきいていたか。		
えがおでインタビューができたか。		
おわりまではっきりとはなすことができたか。		

コメント（きちんと質問ができていましたか。受けて返す言葉が言えていましたか。）

↑≪６年生の評価カード≫

すぐに６年生に評価してもらうことで，もっとよい伝え方ができるようになろうとする意欲が持てる。

２回目のインタビュータイムで１回目にできなかったことを意識して話すことができる。

○１対１が保証されていたので安心してインタビューできた。
○自分のインタビューがどうだったかすぐに評価してもらえた。
●質問することに一生懸命で聞いたことを覚えられない児童もいた。
●質問を重ねるのが難しかった。

話し方や聞き方を身につけさせる指導の工夫　仮説２

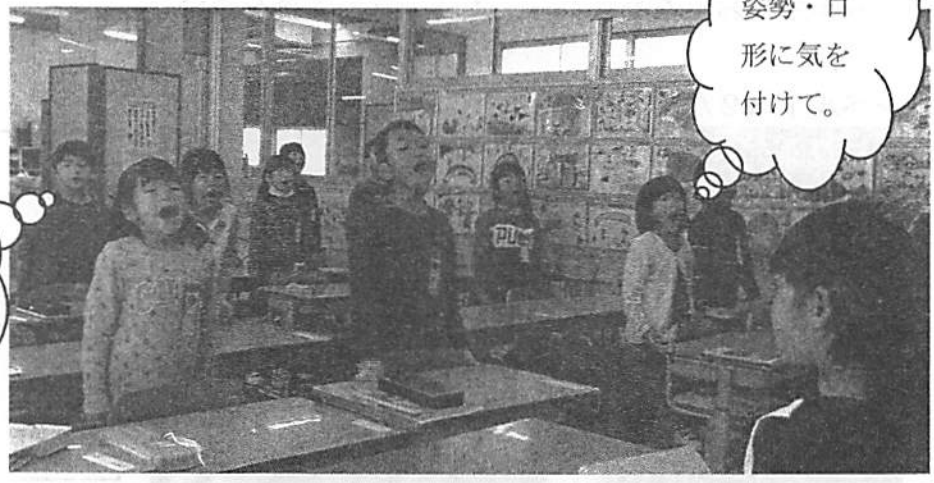
≪継続して指導する既習内容≫

話し方あいうえお	聞き方あいうえお
あいてにきこえるように	あいてをみて
いそがずゆっくり	いいしせいで
うつむかないで	うなずきながら
えがおで	えがおで
おわりまではなそう	おわりまできこう

≪話し方聞き方ドリル≫

授業の始まりに毎時間ドリルをして心と体のウォーミングアップをする。

① 早口言葉

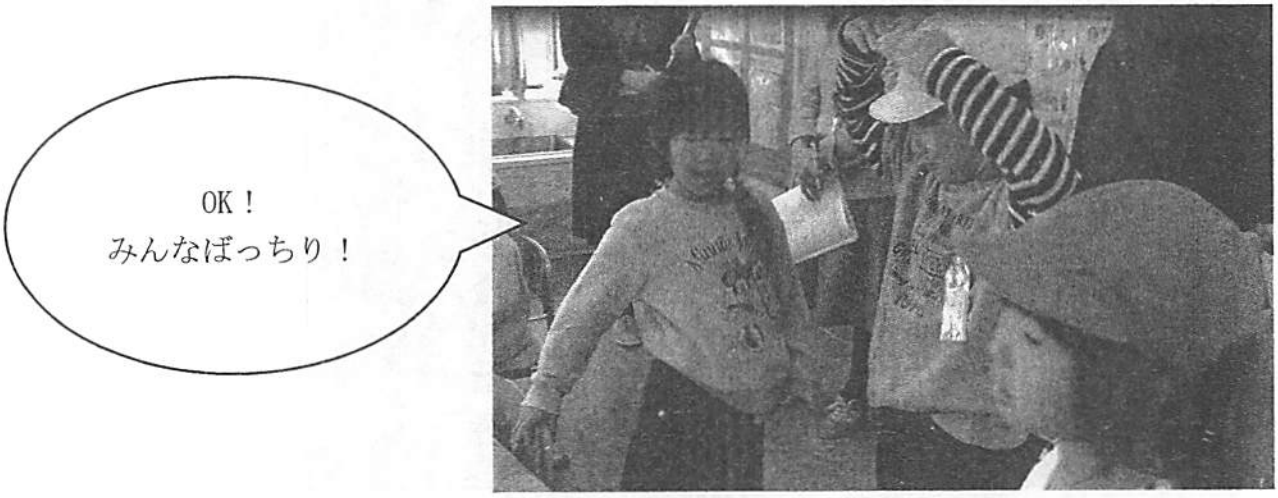


② 音読キャッチボール

・交互に詩を音読する。
・「話し方あいうえお」に気を付けて相手に声を届けられているのか確かめる。
・届いていたら一歩下がっていく。

③ 伝言ゲーム

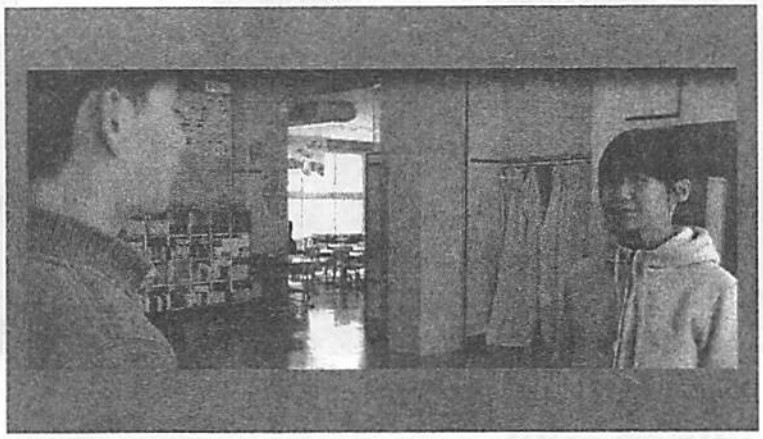
・３人１組になる。
・１番がテーマに沿った自己紹介をする。
・２番は，１番の紹介をしてから自分の自己紹介をする。
・３番は，１番と２番の紹介をしてから自分の自己紹介をする。



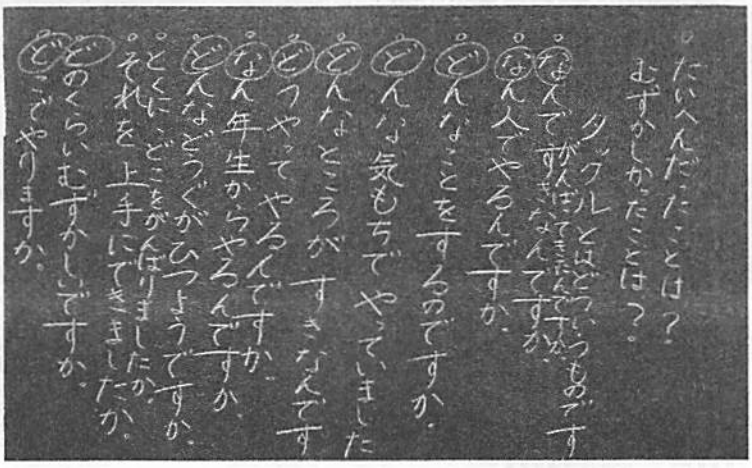
≪単元の指導の工夫≫

６年生のお手本動画から，本時の学習内容をつかむ。

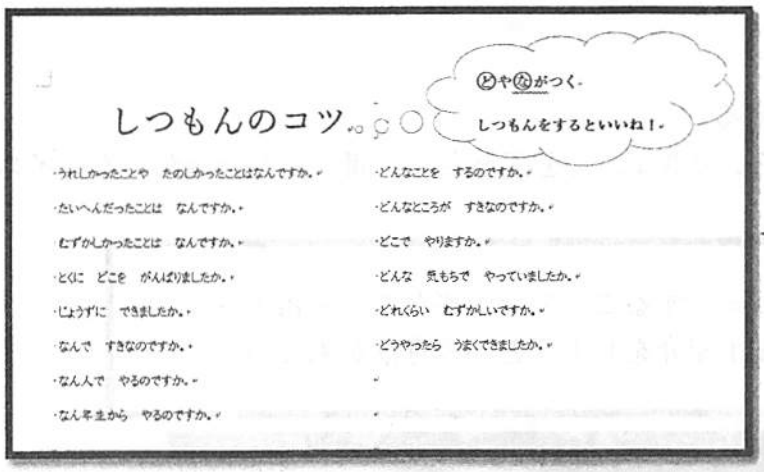
レベル１（２/１１時間）　　「質問のコツ」作り



お手本動画では，
どんな質問をしていたかな。



他にはどんな質問が
できそうかな。



しつもんのコツ。

どやながつく。
しつもんをするといいね！

- うれしかったことや　たのしかったことはなんですか。
- たいへんだったことは　なんですか。
- むずかしかったことは　なんですか。
- とくに　どこを　がんばりましたか。
- じょうずに　できましたか。
- なんで　すきなのですか。
- なん人で　やるのですか。
- なん年生から　やるのですか。
- どんなことを　するのですか。
- どんなところが　すきなのですか。
- どこで　やりますか。
- どんな　気もちで　やっていましたか。
- どれくらい　むずかしいですか。
- どうやったら　うまくできましたか。

「ど」や「な」から始まる質問をするといいのかも！？

レベル２（３/１１時間）　　うなずいたり，あいづちをうったりしながら聞こう

レベル３（４/１１時間）　　受けて返す言葉を入れて，インタビューをしよう

は～。	・なるほど。
ひ～！	・そんなことがあったんですね。
ふ～ん。	・そうなんですね。 ・いいですね。
へえ～。	・わたしも○○はすきです。 ・それはむずかしそうですね。
ほ～。	・○○がすきなんですね。 ・○○がむずかしかったんですね。

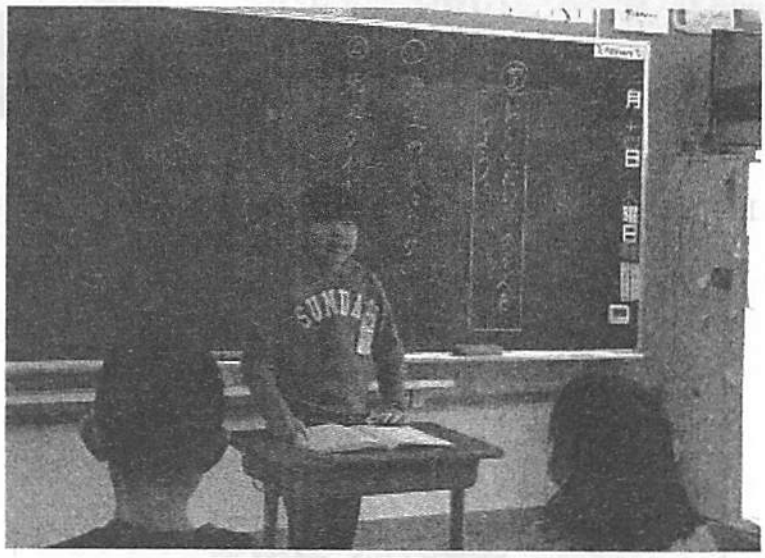
少しずつレベルアップしながら，インタビューに慣れていく時間を確保する。

言語活動２　小倉台小クイズ大会

① 先生方にインタビューする。
② 聞いたことをメモに書く。
③ メモをもとに先生の紹介をする。
④ 先生紹介スピーチの内容から，大事なことを落とさずに聞けたかを確かめるクイズをする。

１対１で先生にインタビューすることで，大事なことを落とさずに聞き，みんなにしっかり先生紹介をしようという意欲がもてる。

↑≪先生にインタビューしている様子≫



↑《クイズ大会の様子》

○一度インタビューを経験しているので，少し自信をもって臨めた。
○先生について紹介した後で，そのスピーチ内容からクイズが出るので，聞き手が内容をしっかり聞き取ろうとすることができた。

学習の実際　〈4年生〉

単元名	すてき発見！聞いて！マイブーム
つけたい力	相手に伝わるように，話の組み立てを考え，理由を挙げながら話す力 話の中心に気をつけて聞き，感想をもち伝える力
言語活動	マイブーム　スピーチ大会

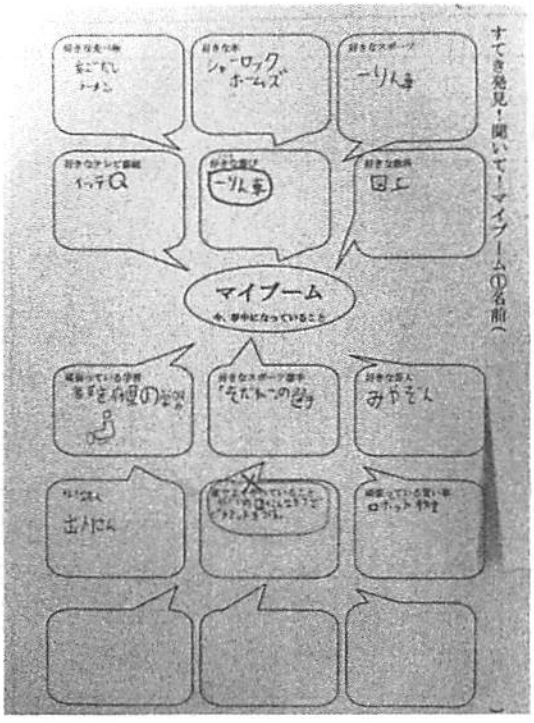
相手意識や目的意識が明確となる課題を設定　仮説１

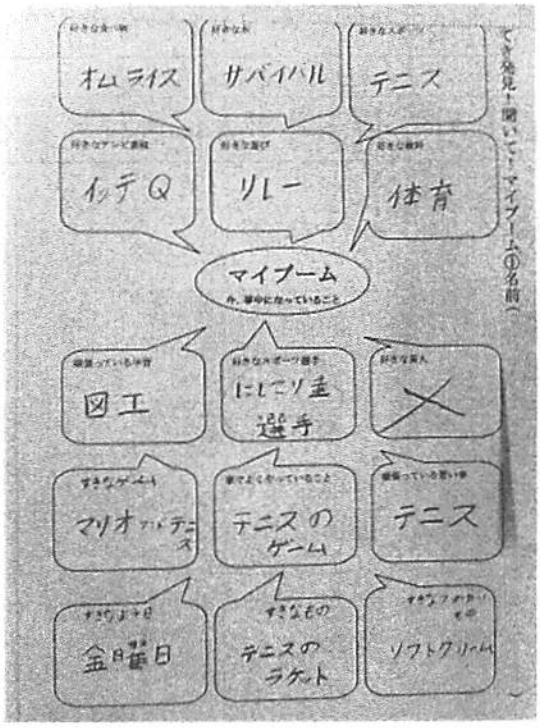
目的意識

・お互いのことをもっと知り，仲良くなるため。
・クラスの友達に，知ってもらいたい事柄を伝える。
・友達の素敵なところを発見する。

○スピーチの話題を選ぶ

思いつくままに書き出し，その中から皆に知ってもらいたい自分やまだ知られていない自分を選ぶ。





話題を決めることが苦手な児童も，吹き出しに書いてあることの中から選ぶことで，伝えたいことを決めることができた。

○学習の見通しをもたせるために，学習計画を立てる

「何を」「どのように」「どんな力を身に付ければ，課題が達成できるのか」を話し合い，学習計画を立てる。

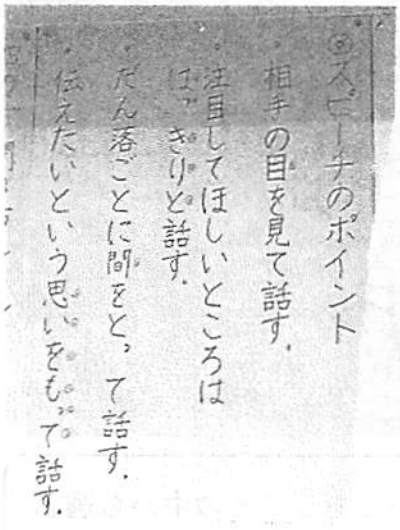
（学習計画表）

一	学習課題を立てる。
二	学習計画を立てる。話題を考える。
三	相手に伝わりやすい話し方について考える。
四	スピーチメモを書き、音声表現を工夫した話し方を練習する。
五	「すてき発見」のための聞き方、質問や感想の伝え方を考える。
六	ペアでスピーチを聞き合い、アドバイスをし合う。
七・八	グループごとに、「マイブームスピーチ大会」を開く。

自分のことを相手にわかりやすく伝えるという目標やそのために何ができるようになればよいかがはっきりとしたことで，学習の見通しを一人一人がしっかりと持ち，主体的に活動することができた。

話し方や聞き方を身に付けさせる指導の工夫　仮説２

○話し方を考える

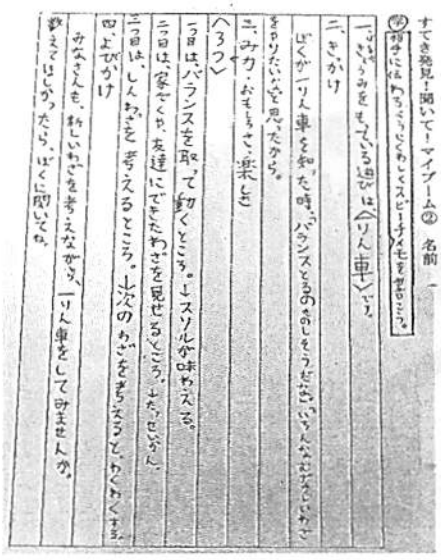


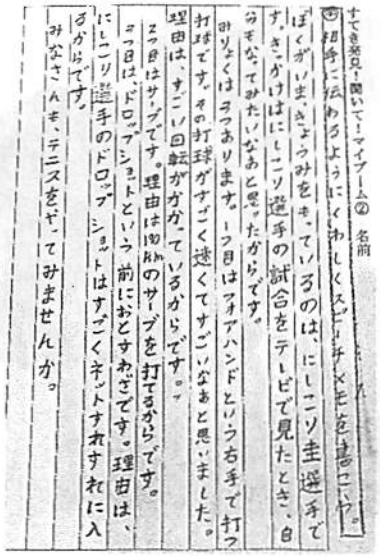
（教室掲示物）

話す姿勢や話し方についてだけでなく，伝えたいという思いをもつことも大切だと子どもたちが考え，スピーチのポイントとした。

○スピーチ原稿を書く

わかりやすく伝えるには，どのような文章構成にしたらよいのかを話し合った。





単元の始めに行った，教師のスピーチをもとに話し合い，基本的な構成を次のようにした。

1．夢中になっていること
2．夢中になったわけ
3．そのおもしろさ・魅力
（詳しく理由を付ける）

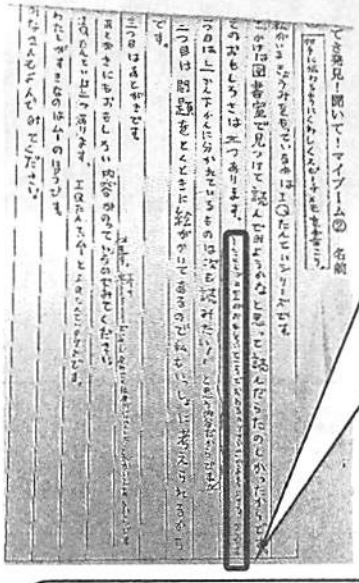
○交流の場を作る

書き終わった児童でペアを作り，夢中になっているわけが伝わるような内容になっているのか，読み合うことにした。

聞き手

何が？　どのように？　例えば？

「答えが当たると気持ちがいい」を「難しい問題の答えが当たるとすかっとして気持ちがいい」と直していた。

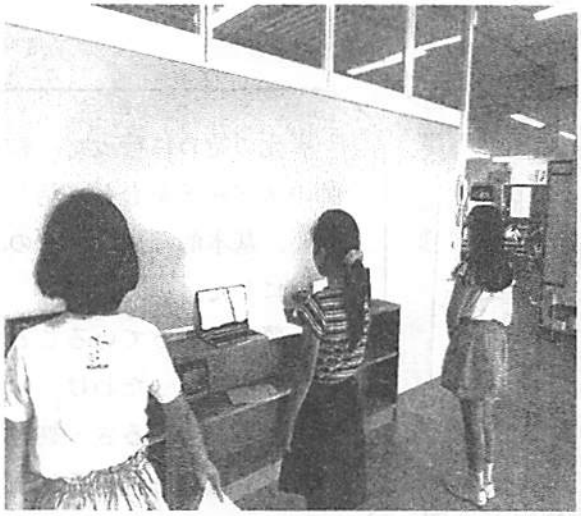


「たとえば」と例を挙げて説明するように直していた。

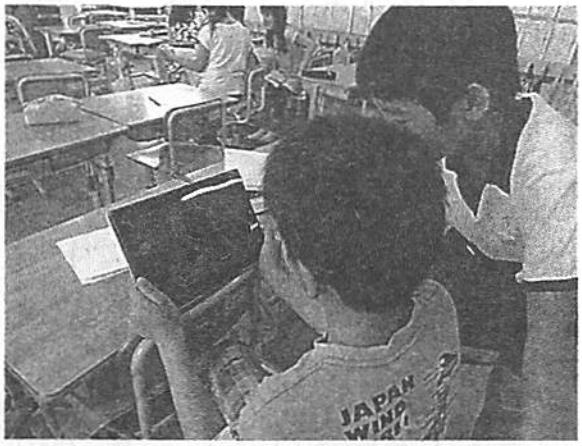
交流の場を設定することにより，伝えたいことが相手にわかりやすく書けているのか見直すことができた。
児童同士だと，深まりがあまり見られなかった。アドバイスできる児童が少なかった。

○タブレットを活用して練習する（一人練習→ペア練習）

自分がスピーチしている様子を録画し，それを再生して自分の課題を見つける。その課題を改善するために，練習することを繰り返した。



タブレットを活用した一人スピーチ練習

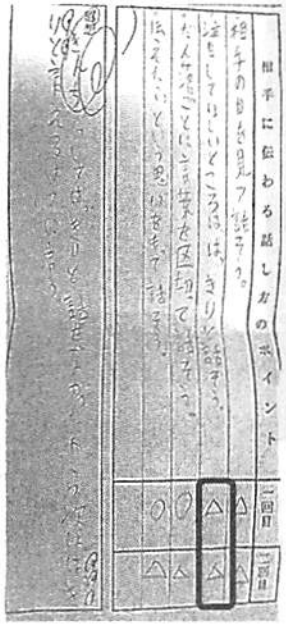


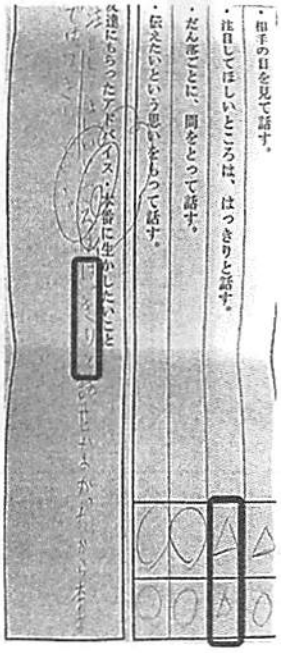
タブレットを活用したペア練習

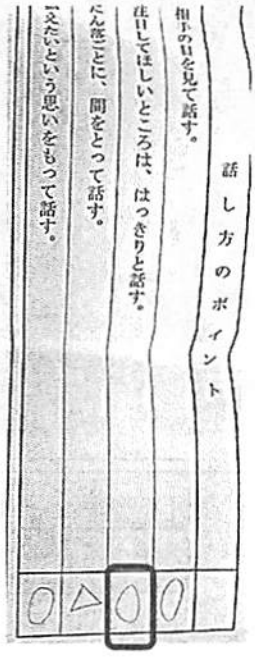
映像を見ることで客観的に振り返ることができ，自分の課題を明確にすることができた。録画した映像を二人で見て振り返りをすることで，アドバイスをする際の手助けとなった。

○振り返りカードを活用し，形成的自己評価をする

A児（皆の前でスピーチすることを苦手としている。）



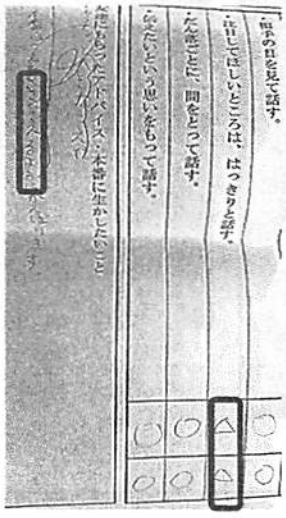


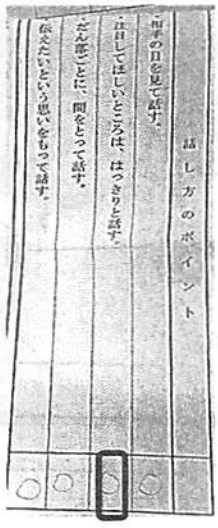


（①一人での練習　→　②ペアでの練習　→　③スピーチ大会）

練習時は，「はっきりと話す」の項目を△と自己評価し，「はっきりと言うこと」を次のめあてとしていた。本番のスピーチ大会では，はっきりと話すことができたと評価し，話す力で伸びた点を「はっきりと言えるようになったこと」と書いていた。

B児（発表するときには，声が小さい。学習中，挙手することはほとんどない。）

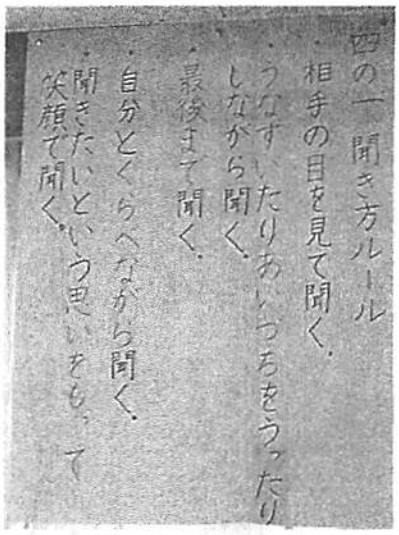


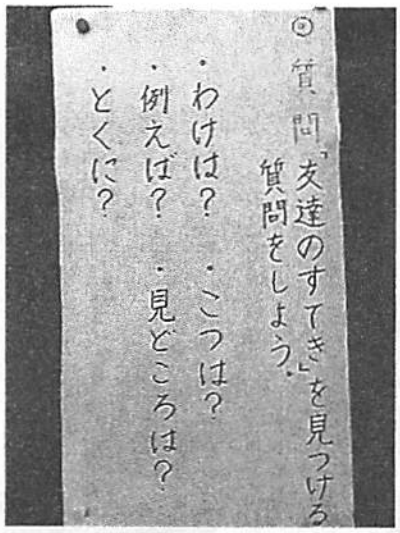


（①一人での練習　→　②ペアでの練習　→　③スピーチ大会）

一人やペアの練習では，「はっきりと話せなかった。」と評価している。本番は，声が聞こえるように話したいというめあてをもって発表に臨んだ。単元の振り返りカードでは，「本番は，はっきりと話せた。」と書いていた。

○聞き方・感想の伝え方を話し合う



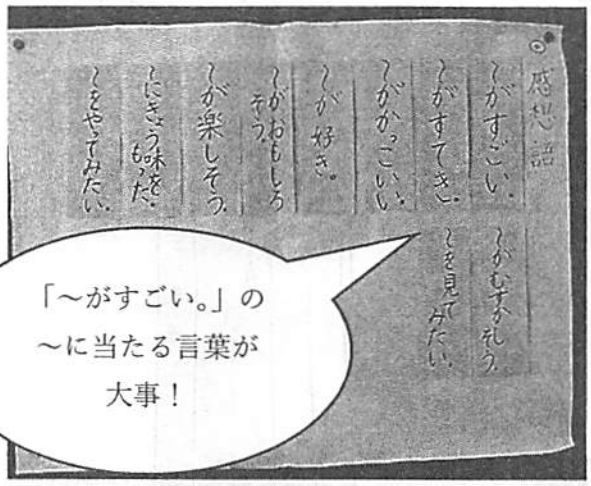


（教室掲示物）

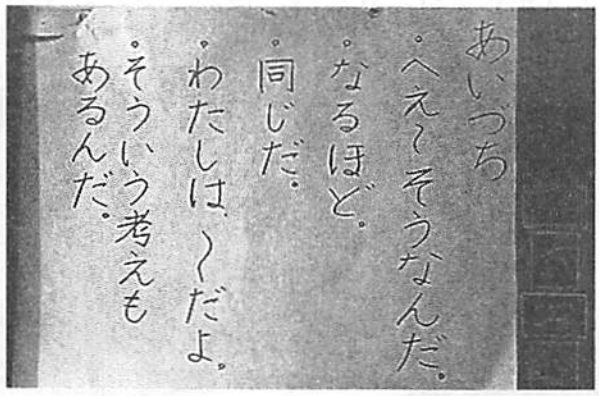
聞く姿勢についてだけでなく，「自分と比べながら聞く」や「聞きたいという思いをもって聞く」と考えが児童から出てきた。受け身ではない聞き方をしていくことがこの学習では必要だと考えることができた。

○語彙を増やす

相づち言葉や感想語を集めた。表にして掲示し，スピーチ大会で伝えるように準備した。



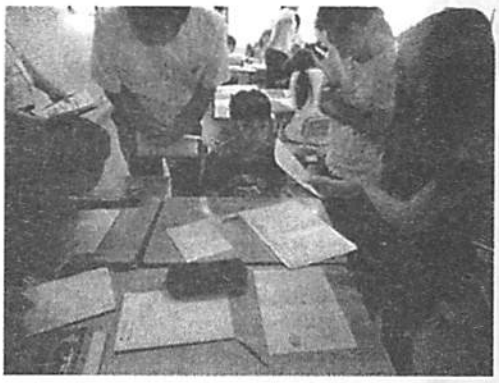
「〜がすごい。」の〜に当たる言葉が大事！



（教室掲示物）

「おもしろそうだと思った。」「楽しそうだと感じた。」と言うだけではなく，その理由を添えて伝えることが，良く聞いてもらえたと感じることを確認した。感想語を集めるという活動を入れたことで，いろいろな言葉で気持ちを伝えることができると感じることができた。

○聞いたことを違うグループへ伝える場を設定する



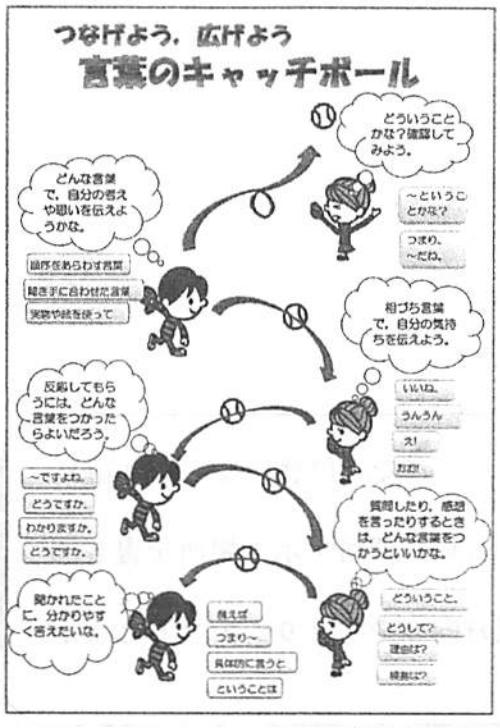
聞いたことを伝える場を作ったことで，伝えるために聞くというもう一つのめあてをもち，スピーチを聞くことができた。

2019 年度　交流の質を高めていくための取り組み

学習の実際　〈5 年生〉

単元名	わが町印西ベストスリーを決めて，3 年生に伝えよう
つけたい力	推薦理由を明確にして，情報を収集し，整理する力 聞き手を納得させるために，構成や話し方を工夫して話す力 推薦理由に納得できるか考えて聞く力
言語活動	わが町印西ベストワン　スピーチ大会

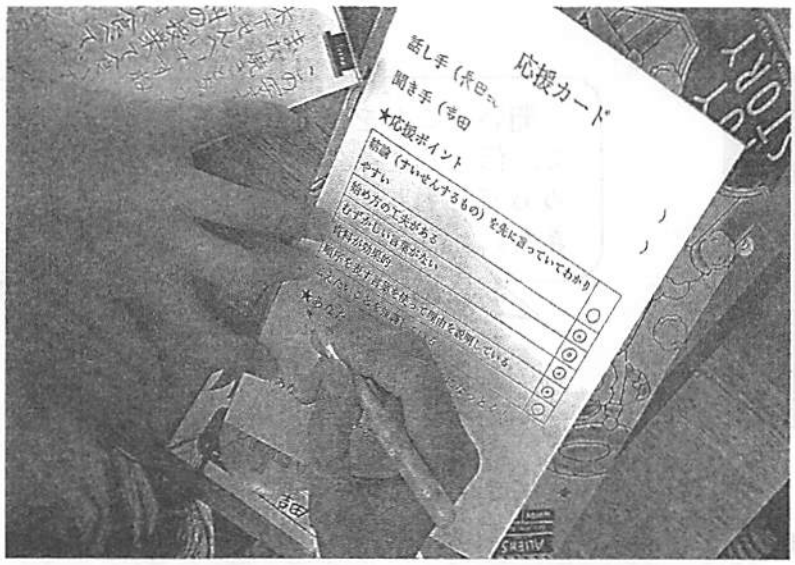
○継続して指導する既習内容



（教室掲示物）

ペアやグループで交流する際のヒントになるように，教室前方に掲示している。
「～ですよね。」と聞き手を意識した話し方ができるようになってきている。

○推薦原稿を書いた後，「応援タイム」で交流する。



応援カード

話し手（　　）

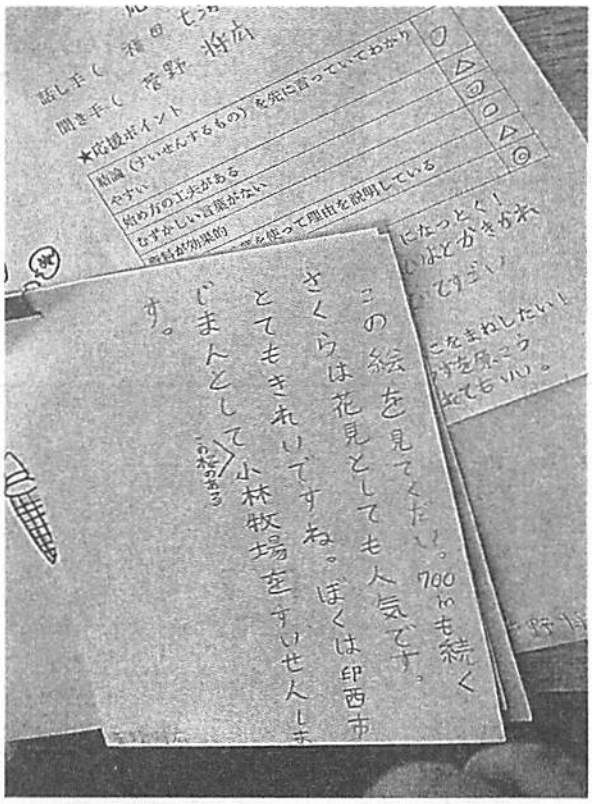
聞き手（　　）

★応援ポイント

結論（すいせんするもの）を先に言っていてわかりやすい	
始め方の工夫がある	
むずかしい言葉がない	
資料が効果的	
順序を表す言葉を使って理由を説明している	
伝えたいことを強調している	

★あなたの推せん理由，ここになっとく！

★あなたのスピーチのここをまねしたい！



応援カードを使い交流の観点をはっきりさせたことで，戸惑いなく取り組めていた。

応援タイムの後，推薦原稿に，詳しく伝える言葉や資料を示す場所を書き加えることができた。

カードに書いたことを伝えるだけでなく，双方向のやりとりができるとよかった。